

【れいほく田舎暮らしネットワークメンバー後半の発表】

Eさん： 大豊町のEです。帰郷5年目にして感じていること、思うことについてお話しします。

私の場合はUターンですが、なぜここに帰って来れたのかと考えた時に、理由は5つあります。

まず、家と狭いながらも田畑があったということ。

それから、近所に人がいた、近所があったということ。

3番目は、家の周囲は農地でスギやヒノキに覆われていなかったということ。

4番目が、車が家の庭まで入れること。要するに道が整備されているということ。

5番目が、これが一番ポイントで、パートナーと一緒に来てくれたことです。自分の周囲の人からも（大豊町）怒田の出身の人は帰ってきたいと思っているけれど、パートナーがなかなか「うん」と言いそうにないという話を聞いています。そこで、私が考えているのは、パートナーが帰って来たくなる環境をどうつくるかというのが、今の課題ではないかということです。

今、感じていることについて。地域を存続させるために行動すること、外部から人を呼び込むことについては、地元の人々の評価というのはいろいろだと思います。こんなつらい仕事を子供にはやらされないとか、こんなへき地ととか、怒田での生活を拒否している人達をどう変えるかというところが、大きな課題としてあると思います。

素晴らしい怒田をこのまま消滅させてはいけないということで、自分が今まで育んできた経験、あるいは知識、そしてネットワークを使えないかと考えました。たまたま私は大学の事務職をやっていましたので、先生方に来てもらって、いろいろ活動をしていただいています。

もう1点、怒田の情報をできるだけ出すことによって、怒田出身者に、今の怒田をどう見せるかということです。その2点で自分が何か役割を果たせるだろうかと考えています。

次に、私のやっている百姓の内容についてですが、私のように年金暮らしの人間だからここでのんびりできるわけですけども、ここで生きていく、ここで稼ぐということになると、状況は厳しいと思っています。その厳しい状況をどう解決するかということで、行政への要望を2つあげました。

(1) Iターン受け入れ準備補助金制度

(2) 地域の土地の有効利用のために、中山間地域での遺産相続に際して登記料の補助、相続しない場合には自治体が寄付を受けることの制度化

怒田の集落と他の集落の違いは、中山間地域の非常に特徴的な部分が怒田にはないということで、怒田の集落は、周囲はまさにスギ・ヒノキに浸食されようと

していますが、集落の中にはほとんど木がありません。私が今、考えている美しい怒田づくりというのは、このような昔の山村の原風景をいかに維持していくかということです。そのことで、さっき行ったようにパートナーが来て住んでもいいかなというふうになればいいと考えて、基本的には集落内の木をできるだけ切っていくましよう、皆さんに働きかけながら細々とやっています。

Fさん： 私は、出身は東京都でして、最初は会社勤めをしまして、体調を崩したことがきっかけでアロマセラピーという世界に入りました。

もともと私自身が仕事に住環境をとらわれたくないというのがありましたので、自分でできる何かを身につけたいということと、自然豊かな土地に住みたいということを幼いころから思っていました。

大豊町には、ご縁で来ることになりまして、自分で調べ上げて、自分で住みたいと思ってきたわけでは、正直ありません。主人の仕事がこちらにありましたので、それで来ることになりました。

家の問題に関しては、私自身はもう既に主人が住んでいたものですから、有難いことに住む場所がありました。ただ、主人は大豊に住みまして、今年で5年目なんですけれども、最初は非常に苦労したと聞いています。

大豊町の魅力は、やはり自然です。どっぷりつかったというか中途半端でない田舎というのが、私達としても魅力です。これは多分、ずっとこの土地で生まれ育った方には正直わからないと思います。

私は、アロマセラピーという仕事をしていますが、こういった奥の土地でお客さんが来てくれるのかという部分の不安はやはりありますけれども、田舎に住むと腹をくくった以上、一度来ていただいた方に少しでも多く魅力を感じていただけたらなと思って店づくりをしています。

移住をして不便に感じたことは、やはり、田舎の家を借りているので、最初、手をいれることは必要でした。私と主人にとっては、それが魅力でもありましたがそういう部分が、自分達でしていくという気持ちがないと、なかなか難しいのかなというのは正直感じています。

また、下水道が整備されていないので、洗剤なんかを垂れ流すということがすごくストレスというか、悪いのではという思いもあって、そのあたりが田舎で住むデメリットではないでしょうか。住む方も自然に対する意識を高めていかないといけないのではと思っています。

大豊町にもっと人が来るようになるためには、やはり、ここの自然が魅力だと思いますので、例えば、せっかく良い場所で川もきれいなので、都会の小学校の子供達をサマーキャンプに呼んだりしてはどうかと思います。やはり子供が楽しいと感じることがひとつの大事なキーポイントなのかなと思っています。

Gさん： 私は移住をしたわけではありませんけれども、ネットワークをつくる前から、来る人達を迎え入れて、歓迎会をして、移住をして来た人と顔つなぎをして、なるだけ一緒に力を合わせてやっていけるようにと思って、一緒に活動するというか相談にもものったりしてきました。

でも、これは、決して人のお世話をしているんじゃないくて、大豊で私が、私の子供たちがここで住み続けるためにしているのであって、人が居なくては私達も住めないということです。だから、私は決して人のお世話をしてきたんじゃないくて自分の世話をしてきた。そういう気持ちで今もおります。

今、私は、WWOOF（ウーフ）という、簡単に言えば農村を経験するホームステイをさせて、一緒にご飯を食べて、一緒に作業をするという活動をしています。この活動の目的のひとつは、大豊に住んでくれるような人はいないか探すことで、農作業をしたいという若い女の人は大豊の独身男性と結婚してくれないか会わせてみたり、住みたいという人には家と土地を世話して住んでもらったりということをしています。

私は、自分がやりたいことが実現できることが個人の幸せにつながるんじゃないかと思っていますし、今まで都会に出て行って、便利な生活と報酬を手に入れて豊かになれると思った都会の人達が、本当の豊かさというのは農村でこそ実現できる舞台があるんじゃないかと、気付きはじめたんだと思います。全国の市町村がそのチャンスをつかもうと皆努力をしていますので、この嶺北の町村も早く基盤整備をして、情報もいっぱい持って、チャンスをつかむよう、皆で一緒に努力してやっていきたいと思っています。

【後半3名の方の体験談に対する知事のコメント】

知事： どうもありがとうございました。Eさんのお話で、帰農できた理由の1つに、「近所に人がいたこと」とありましたが、これは重要ですよ。あと、「パートナーと一緒に来てくれたこと」とのことでしたが、これも非常に重要ですよ。私も2年半位前にちょっとそれで苦労したことがありましたので。本当にそう思います。ただ、その時に、来たくなる環境というのは、原風景を維持することだって仰られていましたけど、それは、高知の、この地域にとっての強みをいかに伸ばしきるかということにあたるのだと思います。本当にそこところは心していかなければならないと思っています。

やはり、観光にしても地域振興にしても、持っているものの良さを素直に伸ばしていく方向は堅持しないといけないと思います。リゾート観光ではなくて滞在型、体験型観光、こういうものを地道に伸ばしていくということが、地道なようですけど王道であり、いずれ成果を生むのだらうと、今のお話を聞いて思いました。

行政への要望の、Iターン受け入れ準備補助金制度ということについてですが、もともと地元におられる方とのバランスとかいろいろ考えなければいけない部分はあると思いますけれど、他方、公共性のある点もあるのではないかと思いますので、どうことができるか、ちょっと研究させていただきたいと思います。

登記料の話は、国の絡む話なので、私だけでは何とも言えないんですが、いずれにせよこういう基盤整備が重要なんだろうと思います。そこはまだ今、私としてははっきりと言えないということでご理解賜りたいと思います。

それと、Fさんの仰ったことの中で、中途半端でない田舎、これの良さというものをご都会の人がものすごく価値に感じるものがあって、その体験自体をもっと発信していくべきだということでしたが、それは、本当にそうだろうと思います。

都会の子をサマーキャンプに呼んできて、短くてもいいから1回体験してもらおう中で良さを知ってもらおう。いずれ大人になった時のことを考えて。これ、都会の子の教育にも良いでしょうね。

Gさんのお話で、農山漁村に本当の豊かさがあるということに全国の人が気付き始めたということでした。私は、この気付いてもらうことが、日本全国のために是非とも、日本の将来のためにも必要なことだと思っています。

是非、人が生きるために必要不可欠なものがあるこの田舎の良さというものを全国に知ってもらおう。若い人に残ってもらおう。そういう地域づくりというのは、国政として取り組んでもらいたいと私は思います。分散型の国土形成ということの本格的に考えなければいけないということを、私は、Gさんが仰ったこととちょっと視点は違うかもしれませんが、深く同感だと思っています。

そのために高知県として何ができるか、移住促進のために、「高知で暮らす。」のような直接的な取り組みもしますし、また、田舎の良さを生かしたかたちで、一定暮らしていくことができないといけないでしょうから、産業振興をはかっていく、子供たちを地元で暮らせるようにするためには、教育はどうなのか、Dさんも仰いましたが、単に経済的な観点だけで小学校の統廃合をやってしまった方がいいのか。よくよく考えないといけないと、感想になってしまいましたが、そう思いました。